

# おおやまと

大倭出版局・大倭紫陽花邑

平成28(2016)年  
**10月号**  
通巻554号  
毎月23日発行  
(題字 矢追日聖)

★発行日 平成28年10月23日  
★発行所 大倭出版局  
〒631-0042 奈良市大倭町1の12  
☎(0742)44-0015  
★印刷 大倭印刷製  
★定価 1部 250円  
年間購読料3,000円(送料共)  
★郵便振替 01050-6-67002  
大倭出版局  
URL <http://www.ohyamato.jp>



平成28年11月12日(土) 大倭会文化講演会講師 関野吉晴氏の「グレートジャーニー」1993~2011

平成7(1995)年10月23日 月次祭法話より

## みなさんと親しくお付き合いするために

—最後の文化行事旅行前に 法主 矢追日聖(満83歳)

### 今の自分の状況

今日はいよいよお天気で、歩いて出て来れるようになったのは、非常に結構やと思っております。明日またどないなんのやら、人間のことやから分かりませんが、なにかれども、やっぱり人間いうのは、みな一期一会でね、今日こないして一緒にあったかて、またどなたが消えるかわからん。私自身が消えるかわからんし。けど、会えるときには、出来るだけ会おうたほうがいいと私は思っております。

まあお陰さんでね、今月の暮れくらいになってくると、毎年大倭の旅行がございます。今年は近くの琵琶湖らしいですけど、これやったら私も皆とお供できる自信がございます。私、歩く練習を極力毎日やっております。これもやっぱりね、自分が健康になりたいとか、そういうような自己本位の考えやなくて、皆さんと一緒に動いたら結構や思ってるんです。それで結局今のところは、ひざぼし(「ひざごぞう」)がまだ非常に力が出にくいんです。弱いです。それで行儀に座ることができませんし、座った以上は一人では立てず、誰かの手を借りなければなりません。そういうような状況ですけれども、まあまだそれ以外に悪いところはございません。

### 病気のいきなり

一番最初ややこしいことになってきた

のが血液の回りですね、足の指の先が痛くなったり、手の先が効かなくなったり、そんな循環器の故障から始まるんです。それからお医者さんの話し聞くと、今度は大事な動脈と静脈の二つの血管が、どっかのところでへばり付いてるらしい。そうすると、下半身の血液の循環が悪くなってくる。それで右足も左足も大きな水ぶくれが出来ましてね、ちよつとの間は長靴の中に入れて履いて歩いてるみたいな状態でおりました。うちの大倭病院の院長なんかは、「それは今の医学では手術しにくい、手術が出来ない」と言うてました。

だからこれはもう時を越さないといけないという状態であつたのが、三ヶ月前に、今度は貧血のように目が眩んでひっくり返つたんですよ、床の間の前で。お尻打って背中打つたんで、レントゲンで見ると脊椎のどっかの骨が欠けてます。そんなひどくはありませんけど。ところがまた、どういふことが知らんけどね、それから一晩寝たあくる日、水が引いてしもうてね、両方の足が軽うなつてしもうた。背中えらい目におうたけれども、足のほうが良うなりましてね、どう考えても神さんの大手術やつてんなあと。えらいどんでん返しのアホみたいな話。

それからあと、痛い辛抱だいました。今日でもな、四〜五時間座つたら腰が痛うなつてくる程度の状態になつてます。けれども、今の時代は結構なものがございまして、旅行の時には車椅子に乗って皆さんと一緒にいきたいなと、私は思つております。もうこれはね、自分の病氣さえ良うなつたらいいというよな世俗的な考えやなくしてね、ほんとに自分は皆さんと共に行動していきたい。今日もまた皆さんとお目にかかることが出来、こんな嬉しいことはございませぬ。

## 神さんは病氣を治さない

説教らしいことは言ひどうないけど、今までしつこく言うように、病氣になつたから、神さん拜んで祈禱してもらつて、そしたら治るといふよな甘つたるいことは、神さんを冒瀆していることになるんです。だからほんとに真面目に考えれば、我々この世にオギャーと生まれてから、百年とか百五十年とか以内にはまたあの世へ行く。これもう受胎した時に決まってるんです。死ぬこと決まってるのに、やれ病氣になつたから情けない、やれ死ぬの怖いから長生きさして欲しいとか、なんぼそんなん神さんに頼んだかて死ぬ時は死にます。

それよりも、命のある間は一日でも二日でも三日間でも、何かのこゝろによつて日々の行動全てが喜びを持つて暮らせるよう心得ていることが、一番の信仰やと思うんです。信仰というのはね、ただ神さんを信じるということだね、神さんを信ずれば神さんの心に添わなきやいけない。そうすると我々「死ぬのが怖い、病氣治して欲しい」って神さんに頼んだかて、神さん「そらよ聞かんよ。初めから死ぬよになつとんねんから。どんな不養生したのか知らんけど、勝手に病氣になつてんのやないか」って(笑)。これ、言われたらおしまいなんです。それよりも、神さん仏さんに頼らんやなくして、神さん仏さんの心を自分の心として、毎日生活していく生活状態が、ほんとに信仰のあり方やと私は思うとります。

私は神さんといろんな交流がございしますけれども、今、皆さんご存じのように循環器が悪うなるわ、頭は脳溢血になるわ、耳が聞こえなくなつてくるわ、足が弱つてくるわ。私みたいな代表的な、

神さんと心やすいよな深い仲でおるのに、この病氣を神さんどないもでけしませぬ。そういうよなこと、あんた達よく覚えておいて欲しい。

だから「大倭へ通つて病氣治らんかった、あの神さんあかんねん」とかね、そういうよなこと思うのは慎んで欲しい。けれども世間にはそんな人おります。「大倭一生懸命拜んだけど治らんかった。よその神さん行く」とかね(笑)。そんな人、事実おるんですよ。けど、それは神さん冒瀆してることになるんでね、その点をよく考えて欲しいと思う。

「自分の肉体は自分で守れ、神さん守つてくれない。世の中にお医者さんという職業の人を生まれさせてんのやから、病氣になつたら医者にかかんさい」と神さんは仰つてる。だから私も病院かかっております。薬も飲んでます。

けれども世間ではね、「神さん拜んでる人は薬飲んではいけない、医者にかかつてはいけない」といふ宗教がようけあります。これはもう神さん冒瀆してる宗教です。これはほんとにはよくないんです。だから、せめて大倭に来る人達は、神さんの心に添うた日々を送るといふことを心得て欲しいと思ひます。それがほんとの信仰なんですから。

## 人間としての心霊治療

けれども病氣になつた時、私も相談に乗ります。私もある程度、いろんな病氣とか分かるものを授かつて、預かつておるんです。これ、神さんの代理なんです。具体的に言へば、霊障害があるといった時に、一生懸命に神さんに頼んだかて助けてくれませんけれども、私自身が悪いものをはずす、また霊そのものに功德を与えてあげる、そういうよな扱う力ですわ、丁度お医者さんが肉體診て

分かって薬を飲んだり手術をしたりするのと同じで、いわゆる心霊治療の力を、霊界の人達から私自身が授かっております。

やっぱり肉体やから、四季の変化があるし、食べ物の問題とかいろいろなこと、なんぼ気い付けども病気になるんす。それが肉体だけの病気であればよろしいけれども、その弱みに付け込んで、霊界で苦しんでいる邪霊が「助けて欲しい」とてへばり付いて来て、肉体の方に病気を出すというような例も沢山あって、今日まで私も随分そんなこと扱っております。

邪霊とか「助けて欲しい」と言うて付いて来てる霊魂に対して、例えば霊界の中で「四」くらのところで苦しんでいる人やったら、「五」くらのええとこへ一つすり替えるようなこと、私はちょっと出来ませぬ。そうすると邪霊とかは、霊界で何か一步徳もろた喜びを持って、肉体の方を治してくれませぬ。自分で肉体を煩わしてんから、また治す力も持っておりますねん。

そういうような関係なので、私が皆さんに「皆さん拜んでもあかん。そら死ぬの決まってるから」と言うたから、あんた達病気になった時、「こんなこと法主さんに相談に行ったら笑わはるやろなあ、かっこ悪いなあ」とか思わんといて下さい(笑)。人間対人間の話ですから。

今おいでになる方の中には、いろんな経験される方も沢山あると思うんです。そんな時、私自身で処理できる程度の霊障害であれば、私は喜んで処理いたします。その辺はね、私と皆さんの仲だから。何も「法主さんは神さんに通じてはんねんから」とか余計なこと考えんとね。お互い人間やねんけど、神さんのことではちょっと私のほうが先輩なだけや。それくらいの気持ちで皆と私は親しく接していきたい。

私もやがては消えていきます。だからやっぱり命の間は、皆さんと親しくしていきたい。その心だけを汲み取ってもらったら、非常に有難いと思います。ちょっと長くなってきました。

## 今の私の希望

十二月過ぎる頃になってきますと、私、八十五(※数え年)になります。これも神さんのお陰やと、一日一日を楽しんで暮らしております。私は今のところ、不平不満とか何して欲しいとか、何一つありませんねん。せやねんけれども、出来るだけ力出るように何とかならんかと思っております。

## (続) 矢追盛賢さん追悼特集

### 母親のよつに

あじさい邑 反保 良

もかちゃんは確か二歳くらいの時に、大倭で生活することになり、私の後ろに「あーちゃん、あーちゃん」と、なついてついて来てくれました。私を母親のように思ったのかもしれない。志津女さんと鬼ごっこなどして二人でよく遊んでいたの、姉弟かなと思ったことがあるくらいです。

小さい時からヤンチャでゴンタクレだったけれど、とても素直なところがあって、転んで擦り傷が出来ても、「泣いたらあかん」と言われたら直ぐに泣き止んで、「祓いたまえ清めたまえ、ふうふう」と唱え、傷口に息を吹きかけたりして、とても可愛く思いました。

幼年なのに、牛が大の苦手で、小学校高学年の

す。これは自己のことやけれども、健康だけは保つていきたい。そして皆さん方と一日でも仲良く気持ち良うお付き合いたい。これが今の私の希望です。それ以外に「大倭教が良くなるように」やとか、立派な拝殿が建とうが(笑)、そんなことは問題にしてません。やっぱりこれも時間経ったらやがて消えてしまう。火事いくかわからんし。だからそんなものに、私は執着ありませんけれども、自分の命のある限り、皆さん方と親しくしたい。これは私の生きてる時の希望です。まあそれだけ。終わります。

あとはまた、相談あったら遠慮なしに来て下さい。(文責・編集部)

時には、波留茂、香須弥、法義、千久佐などを引き連れて通学中に道で牛に出会うと、「隠れろ」と言うと同時に、もかちゃんは田んぼの稲の中にさつさと身を隠したと聞いています。そんなある時、「電柱と牛が喧嘩したらどっちが勝つか?」と尋ねられて、思わず笑ったこともありませぬ。

変わったところが多い子で、扉の上に石がある絵を描いたので、「これは何や?」って質問すると、「先生が扉を開けると頭の上に石が落ちてくるねん」と答えるのを聞いて呆れたこともありませぬ。

大学を卒業し大倭へ戻ってきてから、印刷工場の一階で暮らしながら大倭殖産で働きはじめました。彼の洗濯物やアイロンかけをうちで子供たちと一緒にしていたのですが、少しずつでも毎日持つて来てくれるように何度も言うのに、笑顔でドツと持ち込んできたのを懐かしく思い出します。

当時から麻雀が大好きで、印刷の二階や我原家などで夜遅くまで熱中していたようです。

大倭殖産の仕事で忙しくなっても、優しさは変わらず、顔を合わすと、「どうやー」「大丈夫かー」などと、親身に語りかけてくれていました。カラオケにも何度も連れて行ってってくれて、もかちゃんの歌う石原裕次郎の「夜霧よ今夜もあがりとう」などには聞き惚れていました。亡くなった今も、いつの間にかその歌を鼻歌で口ずさんでいたりする私がいいます。

## いれからもよろしくね

あじさい 邑 杉本 志津女

小学校に行く前後の子供四人（盛賢さんと私と他二人）が、瑞光庵（前月号2頁写真）で法主さんたちと一緒に暮らしていました。

ある晩のこと、寝ているときにシャワーという音に目を開けトイレの方を見たら、手水鉢ちゅうすいばちの下の洗面器に盛かつちゃんがおしっこをしていました。あるときは自分がおねしょ（夜尿）をしておきながら志女チャンがしたと言いましたが、パンツが濡れていたのではおぼろげに思いました。

その頃、枯れ枝を集めるのは子供たちの仕事でした。それを大人は一人ずつ計るので、私たちが子供は一計を案じ、集めた柴をみんなで平等に分けて持ち帰るようにしました。盛かつちゃんと（吉澤）光夫くんは柴集めより山遊びが好きでした。

私が二歳半ほど上だったせいかわかるさいことも多かったです。後年、夫人の知子さんに「今も志女ちゃんは怖い」と言っていたそうです。私が子供グループの監視役と思っていたのかも知れません。

子供の頃は姉弟として暮らしていましたが、盛かつちゃんが高校に行くようになったとき、法主さんから、法主さんの弟夫妻（矢追隆盛・麗子）の子であると告げられたと聞いています。その頃から実の母と、法主さんの両方に人知れぬ気遣いをされていたようでした。

学生運動の花やかな頃に日本大学に入学し、東京にいる実兄盛賢さんとも近くなったとのこと。また東京時代には、後に「東京のお母さん」と言うくらいお世話になったマージャン店の女主人もおられたようです。

司法の方面にも関心は強かったようですが四年で邑に戻り大倭殖産側に入りました。平成元年九月二十四日、柴地則之社長が急逝、いきなりの社長就任でした。厳しい時代での会社の舵取りは大変な様子で、眠られない夜が何度もあったと、そんな本音を漏らすのを聞いたこともありました。

逆に私が大倭病院の事務長を引き継いだときには、安心して本音を漏らした私に、盛かつちゃんは「おれもおんなじや、大倭では皆中途半端なものばかりがやってるんや」と慰めてくれました。今年の五月二十七日、大倭病院の決算会議でお会いしたのが最後でした。

八月十七日、あなたのお骨を抱きながら墓まで行きました。永い間有り難うございました。

## ゴルフ談義

大倭病院院長 松本 一元嗣

400ヤード、パー4のミドルコース。第一打を250ヤード、150の残り第二打を何とかオンさせてラッキーならバーディーを取る。これが我々普通人の目算。

矢追盛賢社長のゴルフは豪快です。第一打を3

00ヤードオーバーと一気に攻め切る！残り100ヤードなのでエッジでグリーンの中央を狙うかと思いきや、再度120ヤードは優に打たれます！もちろんグリーンオーバーです。グリーン奥20ヤードに玉を置いてからの寄せです。コース設計では手前10ヤード程の花道なるものが設営されていますが、奥からは逆に下り斜面で寄せが難しいです。この奥からの難易度の高い寄せをピンオーバーの登り斜面に付けるのがお上手です。

第四打は普通人と同じ位置からのパットです。今度は神経質過ぎるほどに慎重に慎重にと時間をかけてのパットで、無事にインしてパーです。これが盛賢社長流のパーゴルフ！何か質問ありますか風の表情でグリーンから降りてこられます。

あの世とやらの霊界では肉体がないので、体力任せの社長の豪快なプレイは無理でしょうが、パターの如く冷静沈着にプレイされて謳歌してくださいませ。

「早うきよつたなあ〜！」と、笑顔の法主日聖が迎え立つ！と思えます。再会の折には霊界でのゴルフを指南くださいませ！

## 度量の大きさに感銘

佐渡在住 大滝 哲也

同じ印刷の二階の住人だったし、このたびはまたお若かったこともありシヨックだった。そこで思い出を一つ。

私が運転免許取りたての二十頃のこと。どうしても車が必要な何かの用事があり、彼の部屋に行ってお願したところ、スツとキーを貸してくださった。たしかクラウン二千CCだったと思う。もし私が事故でも起こせば……なのに。用事を済ませて帰ったのは真夜中。ゴルフ場の

交差点を通過する際、阪奈道路から車が一台入って来たので、「パパパパ〜！」と思いつきクラクションを鳴らした。相手の止まり方がなんか変だったので、信号機をよく見ると、なんとこちら側が赤の点滅。「しまった！」と思ったら、相手は追いかけて来た。こちらのルームミラーには、サングラスをかけた男性の、何か叫ぶ大きな口が二つ映っていた。どうも普通の人ではなさそうだった。しかし私が大倭の敷地に逃げ込んだら、それ以上は追って来なかった。

翌朝キーを返す際に、「えらいすんません！多分ナンバーも見られたと思う」と状況を説明したら、「どんな車やった？」と問われた。「黒のセドリツクやった」と言ったら彼は、いつものように黒い瞳だけで笑って、「余裕やな」とおっしゃった。つまり、勝てる自信があるということだ。

ちょうど一回り上の盛賢さんだが、その時それ以上の大きさを感じたこと、今も忘れられない。



▶平成3年10月9日 奈良ロイヤルホテルで挨拶する盛賢さん。前の席に法主さんの姿も見える



▶平成21年9月3日 奥津斎庭での祖霊祭中の右から明昌さん、教長さん、盛賢さん

『おおやまと』紙に残された 矢追盛賢さん語録

編集部

昭和51(1976)年4・6・7月号

「大倭育ち二代目の座談会」から

当時26歳、大倭殖産社員

▼学生時代に東京へ出て、大倭を客観的に見れたということは確かですね。それに、朝は何時まで寝てもよいし、解放された気分になったわけ。しかし、最終的には向うで習得したものをこっちに還元するということで、帰ってきたんです。そういう必然的な運びになっているみたいですね。…略… 「いやや、出たい」と思っても、責任感がそうさせへんのとちがいますか。

▼(法主亡き後は)法主さんがいやへんと仮定すると、あとはみなドングリの背くらべや。結局、みんなで何回も頭打ちながら蛇行して行くような気がするね。…略… 頭打った時に軌道修正する人がいたらええけどね。でもそれは、自分らでやっていかなあかんということかな。…略…

▼世間では死活問題であるようなことでも、ここではある程度、集団の包容力で解決できるようなこともあるしな。

平成8(1996)年8・9・11月号

「一門育ちの男性達に聞く」座談会から

当時46歳、大倭殖産社長

▼(教長さんの「おれがいくら真面目にやってもやな、法主さんのような人はもう居らへんと思っわ。今まで来てた人も不安とちがうかな」という発言を受けて)皆さん、自分の持ったもんで来るやろ。教長はんの気持は分かるんや。おれも大倭殖産で柴地社長が亡くなった時、葬式がすんだら突然おまえやれ言われて…。

▼「かなながら」はマニユアルでない。マニユアルがあったら分かりやすいけど。

平成元(1989)年11月号

「柴地則之さん追悼号」から

柴地さんの思い出

私と柴地さんの出会いは、今から二十五年程前で、まだ中学二年生の頃です。当時、大倭には関西の大学生が救ライ活動のために大勢集まっていた。その中で「ダンちゃん」と呼ばれていたリーダー格の人物が柴地さんだったので。その頃の柴地さんは他の大学生とは一味違った感じで、何か近寄りたがたい雰囲気がありました。

柴地さんとの思い出という、やはり私が昭和四十七年に大倭殖産へ入社してからのことが主になります。私が入社した頃の会社はブロッコ工場事務所に居候で、社員六〜七名のアットホームな所でした。柴地さんを中心に将来の夢をふくらませ、無我夢中で毎日突走っていたものです。柴地さんは実直で、厳しいけれど温かみのある指導のできる人でした。他人への気配りを常に忘れず、社員に対しては、仕事があまくできた時はその労をねぎらい、決して自分の手柄話をされませんでした。ユーモアもあって、大阪へ飲みに行ったとき、店の女の子に「今、オレが夢中になっている女性がいる。ちょっと毛深いけど、その写真を膚身離さず持ってんのや」ともったいぶって写真を披露すると、何と柴地さんがかわいがっている犬だった、というようにもありました。

来年の八月には、会社は設立二十周年を迎えます。柴地さんに育てていただいた会社を私達は立派に成人させていかねばなりません。柴地さんのことですから、私達のが心配でのおんびり休んでもおられないでしょうが、ちょっと気を抜いてゆつくり寝ころんで私達を見守っていて下さい。

平成9(1997)年1月号

「大倭紫陽花邑からの年賀状」より  
大倭紫陽花邑には無秩序の秩序

法主さんが帰幽されて、初めての新年を迎えました。世間並で言うとうと、まだ1周忌も過ぎていないのに、おめでとうございませうと言うのは、いささかばばかることになるが、大倭流の解釈では、法主さんが生前よく言われていたように、現界は泡沫の世界で、使命のある者が現われて、それが終るとまた元の霊界に帰る。これは、生命を持っている万物に共通した摂理であり、その意味からすると、法主さんは1人の人間として、この現界で充分すぎる程の使命を全うされ、又、多くの人々に影響を与えられて、84年の生涯を閉じて元の霊界に帰られた。非常におめでたいことである。しかし、正直言って、法主さんの臨終の時は今まで経験したことのない惜別感におそわれた。又その存在の大きさも改めて認識させられた。

早いものであと1ヶ月で法主さんが帰幽されて1年になるが、大倭紫陽花邑の現状は、無秩序の中の秩序というか、各人が自分の役割を認識し、それなりに機能している。それはもちろん、霊界からのサポートもあると思うが、「神ながら」のなせる業であると思わざるを得ない。

私の今年の課題は、生前から法主さんが懇願されていた、大倭内の環境整備に着手することである。この作業は、大倭の皆様がなければ不可能であるし、余り遅れると、霊界から債務不履行で呼び戻されることにもなりかねない。私もまだもう少し現界に未練があるので、是非皆様の御力添えをお願いするしかしかたがない。

今年も4回目の年男になります。充実した年になるよう、一層頑張りますのでよろしくお願致します。

## 大倭千一夜

(其の二十九) 昭和43(1968)年3月23日『大倭』1・2・3月合併号通巻第29号より再録

### 天狗さんあれこれ

法主 矢追 日聖 (満56歳)

——徒然なるままに心霊のくさぐさを喋る夜ばなし (最終回)

#### 横道の話

「天狗さん」のことかね? そうだね。『大倭新聞』に、東京大久保の金の玉御殿に天狗が川面凡児を使って霊験を現わしたとか、またこの『すさおのお』紙第十号「庶民の生活に深く根ざした土着信仰」の中でも、北陸へ参った時、白山の古天狗に迎えられたとか、同じく第十九号では大阪市谷町七丁目の古い楠木の上から挨拶を受けたとか、まあ、こうして自分から世間の人に語っているのだから説明せんわけにはゆかないね。

神社などでお祭りのお渡りに先頭の道案内をつとめる人が、鼻の高い真赤ないかめしい顔をした面をつけているのは周知のことだが、古くからこれは猿田彦神と言われている。この面相を普通に天狗さんとも言っているようだね。この天狗さんの相棒が「おかめ」の面であるのが面白く、夫婦随を具体的に現わしているのかも知れない。この面はね、実は天狗ではなくて、最も勢いついた、つまり「いざ鎌倉」寸前の構えを現わす男根であるんだが、その内面は歓喜充滿といったところだね。おかめの方は女陰(ホト)だよ。一般にはオメコ(御女子)というがこれも何時かの時代は陰語であったように思う。余計なことをじきに喋らされてしまうので困るが、さっきのおかめの面のことね、じつとその面相をよく見て御覧よ。真赤なよく締まった可愛いオチヨボ口、その上につけ

た低い鼻、白いつき立ての絹はだのような柔らかいホコホコ餅を連想させる両頬のふくらみ、おかめ饅頭のようなオデコに黒髪が掛けてあるあたり、さすがに古代人がもっていた創造的意欲の優れていたことに驚異を感じるね。

天狗とおかめの面は、いつの時代に誰が作ったのかは知らないが、それは誰でもよいとして、創作する時にその作者の頭に閃いたものを一寸のぞいてみよう。しかめつらの天狗さん、ニコニコ顔のおかめさん、この対照は実に面白い。しかし両者に秘めているものは共に同じ歓喜充滿の相である。それが陰陽の立場に於いて巧みに表現してあるのには恐れ入る。ピンピンに動的上向きの曲線、鼻の先をふくらませて、あのいかめしい眼差しは何を目標にしているのだろうか。眉毛を八の字にさげ両頬を高くもり上げ、眼尻を下げた細眼でニコニコと微笑んでいるのは何を表わしているのだろうか。笑う顔が口だけ堅く締めて作られているところが妙味だね。

こんな横道の話は止そうよ。大倭教が臭くなってからね。ハハハハ。

#### 霊としての天狗

この間、天狗について辞林を開けてみた。それによると、「深山に棲むという想像上の怪物、人形の形姿をなし、鼻高くして翼あり、常に羽扇扇を持って飛行自在なり」。こういうように説明が

あった。辞林に書いてあるのだから、一応、天狗といえはこれが定説みたいなものだろうよ。私が口にする天狗はこの説にはまらない。天狗という言葉を使う私の方が間違っているのかも知れないね。

便宜上、私は天狗という言葉を使っているが、それはね、想像上の怪物ではなくて一個の人格霊で、その霊体は或る場所を根拠として実在しているものを言っている。勿論これは私個人の霊的感応によって分かっている範囲で、同じ霊体に対して、若しほかの人が感応があつたとしても、私と同じ感じ方をしていないのかも知れないと思うね。

こんな問題は、お互いに客観性がないから批判の余地がない。ここでいう天狗の話は主観に基づいた、私だけが信じていることだから眉を唾をつける必要もなし、ただ信疑を超越した心で面白く聞いておればよいので、知ろうと思つたつて研究しようと思つたところで、天狗霊の霊波長を感じない者であれば、屋根に登って星さんをかち落とそうと長い物干し竿を振り廻すようなものだからこんなことは止した方が利巧だよ。

私のいう天狗さんはね、口では言えないほどの種類や階層がある。定義なんて出しようがないよ。このような霊体が棲む世界は、現世に在った時、強力な権勢欲をもちながらこの世を去った人々の霊界ということになるね。例えば、武力を持って天下を統一しようと考えた人々、天下に名をなそうという目的に一生をかけた人々、こうした目的に賛同して同じ行動をとった人々等が、死後の世界では私がいいう天狗さんということになるわけだ。

昨年十一月二十六、二十七日に参った北陸倶利伽羅峠、安宅関近く篠原などの源平古戦場には小

天狗の群れがあちこちにあつたね。分かりやすく言えば、源平時代や戦国の世に活躍した武将や家来達のいずれもが、今の時点から霊界を見れば種々様々な大天狗、小天狗といつても誤りはない。が、たとえ今の世にこの天狗さんが再誕していても、霊界の相(姿)には昔のままのものがあるんだがね。こんなことは考える必要はないよ。

天狗さんは人格霊だから、我が住む土地のあちこちに同じように霊体で暮らしているんだよ。ところが不思議なことに各地に霊体が散在しているのであるが、霊界では天狗さん達でできている霊界がある。肉体をもつ私は日本の大倭にいても、私の想念(霊波長、エネルギー)は瞬間に世界を駆け廻ることができると、人間お互いが心で或る世界を作る可能性があるように、霊界ではそれが既にできているということだね。大倭で何回も見ている天狗さんに、地方でひよいと出会つて、この天狗さんの本霊はこんな所だったのかと驚くことがある。

奈良東大寺、二月堂に向かつて左手の山に謙正坊、生駒山の宝山寺お堂の上にかぶさっている岩石に正覚坊、能勢妙見山本滝寺に魔王、吉野宮滝に醍醐院、まあ一寸挙げるところという風に自分から名乗りをあげる天狗さんもあつて、これらは中々数少ない高級位にあるもので、大倭で見れば身近にいつもいるように思える。天狗で有名な鞍馬からは、大倭神宮の祭典には必ず太郎坊、次郎坊の大天狗が使いとしてやつてくる。霊界でも交際はあるようだね。

紅葉が美しいから行きませんかとか芦屋の佐藤孝子さんに誘われて、昭和四十一年十二月二日、愚妻鈴月と私の三人で鞍馬へ遊びに行った。勿論、紅葉だけやなしに私にとつてはこれが鞍馬へ足を入れる始めであり、いつも親しくしている天狗達

の現界の本拠地でもあるので、私の足跡を手土産のつもりでお邪魔することにした。これもお付き合いでね。

私は朝寝坊をするので出発が遅くなり、鞍馬寺の山門に着いたのが午後の三時半になっていた。冬の陽は西に傾き黄色に染めた紅葉はこの外美しかった。本堂の庭をぶらぶらして鐘などをついでいると四時になった。暮色はおもむろにあたりを包んでいる。帰りかけると本堂の左手の山の方から強く引かれ始めたので、私は心なくその方向に歩きだした。鈴月は天狗さんの霊威を特に敏感に受ける素質をもっている、これは面白くなつたぞと思ひ、振り返ると、トットトットと右手首を動かしながらついてくる。来たな一と思つたとたん、細い薄暗い登り道ではあるが私を追い越して身軽に向こうへ向こうへと進む。いつものことだが天狗さんの棲まいまで道案内するのが鈴月の役目になっているようだね。僧正ヶ谷とか牛若丸の修行場とかは夢のように聞いているだけで、その場所については全然分からない。

根が網のように地面に露出している所にさしかかった。実に危くて歩けないのに鈴月はトントンと走るように小さなお堂の前にとどりついてた。五時であった。堂の後ろに大きな古木が惨めにも枯れているのを見ると、肚の底から懐かしくなって涙がこみあげてきたね。

六時、山門側の鞍馬ホテルで休息し、鞍馬なべで夕食した。椎茸、ネギ、ユバ、ユリ、ナメ茸、岩茸、ゼンマイ、ワラビ、マタタビ、セリ、菊菜、銀杏、フキ、岩竹、うまかつたね。(つづく)

昭四三・五・二七 日聖記

※どうやら続きを書くつもりでおられたようですが、『大倭』の発行はこの号で発行が終わつてしまいました。(編集部)

あじさい日誌

9月21日 静岡県袋井市の石垣雅設・清水夫妻が来邑、大倭会館で1泊されました。

9月23日 大倭大本宮月次祭。

この日は平成5年9月23日の法話をお聞きしました。(平成27年9月号『おおやまと』に「お彼岸さん」として掲載分)

栗山美智子さん(熊本県南阿蘇村)と友人が大倭神宮参拝に來られたとのことで、後、大本宮月次祭にも参加されました。

10月6日 大倭神宮月次祭。夜7時から大倭会館で邑倭の会が行われました。

10月9日 第573回祓会。大倭神宮を採て来たという女性

が、神宮にお参りの後、飛び入り参加。大倭とか宗教、霊界についての説明からけっこう突っ込んだ話になりました。

大倭町親睦日帰りバス旅行。邑人も大勢参加して和歌山方面に行きました。昇ちゃん「行かない」と言い、結局参加して

ご機嫌なのはいつものパターン。しかし朝、寝過ぎて迎えに來てもらいました。曜日・時間がややあいまいかなあ?

大倭安宿宛では(菅原園) 9月13、14日 岡山方面に宿泊旅行、美観地区や後楽園を観光しました。

(須加宮寮) 9月15日 奈良パークホテルで青垣園と施設交流会。

9月21日 敬老のお祝い。70歳以上の住死者が47名です。

9月22日 住死者14名も一緒に大倭墓地へ物故者墓参に行きました。

(長曾根寮) 9月19日(デイサービス) 敬老会。お祝い膳とエコー香友会様

によるお琴、尺八の演奏会。

9月22日(特養) 誕生会で7名(内卒寿1名)の方のお祝い。

9月24日(特養) 喫茶倶楽部あじさいに22名の方が参加。おやつ、歌と踊りを楽しみました。

(茂毛路園) 9月24日 近隣の自治会やボランティアの方々、ご家族を迎えて地域交流会。食事を楽しんで

頂き、恒例の職員の出し物。今年は二人羽織りとロック調のソーラン節の踊りで盛り上がり

しました。

(八重垣園) 9月19日 ご馳走や紅白まんじゅうで敬老の日のお祝い。

この日、岡山市 太田興子

(※昔、紫陽花邑に住んでいた頃の愛称はキョーチン。双葉館時代の旧友ということで、中島

佐栄子さんに届いた手紙より抜粋させて頂きました。編集部)

岡山は連日、猛暑日です。そ

の後、体調は如何ですか。

心臓の病気には様々な因子があるけれども、予後は自分自身が望んで生きていく事が一番だ

そうです。食事運動も大切ではあるが、自身が誰かの必要とされている事が最も大切だと、私が病院でお世話になっている保健師さんは何時も言われます。

『おおやまと』をいつも送って頂いて感謝しています。次々とお見送りする事が残念です。間違いなくいずれ私も...ですが、その前に何が出来るのか、何を気をつけるべきか(ただ思うだけです)。とにかくこの先は余りに迷惑をかけずに

いきたいものです。

湯浅さんという方が美甘に住住との事。美甘は水も緑も美しい所です。新見美術館に行く時、何時も寄って休みます。

あんない

\*月次祭(大倭神宮)

11月6日(日) 午後2時より大倭神宮にて。

\*大倭会主催第574回祓会

11月12日(土) 文化講演会として行われます。詳細は上欄。

\*月次祭(大倭神宮)

11月15日(火) 午後2時より大倭神宮にて。

\*月次祭(大倭大本宮)

11月23日(祝) 午後2時より大倭大本宮拝殿にて。

大倭会文化講演会 われわれはどこから来て、どこへ行こうとしているのか?

—「この星に生き続けるための物語」

日時 平成28年11月12日(土) 午後2時~5時頃

場所 大倭大本宮拝殿

講師 関野吉晴氏

プロフィール:

探検家・人類学者・外科医であり、武蔵野美術大学教授。

1978年に南米ギアナ高地を訪れ、1981年にペルーのアマゾン川源流地域でアンデス文明の遺跡を発見したりしている。1993年から10年以上の歳月をかけ、人類発祥の地アフリカから人類拡散の足取りを逆側から辿る旅「グレートジャーニー」を、自分の生身の手足のみを使って行なった。そして、近年は日本人のルーツを探る新グレートジャーニーを行なっている。

過去の人類の歩みをふりかえりつつ、これからの人類が、課題の山積しているこの地球でどのように生き残っていけるかという大きな問いを投げかける。

※講演会終了後、講師を囲んで懇親会を行います。

(会費:夕食付1500円、定員50名)

